

(様式2)

# 農業の新しい技術

No. 708(平成29年5月)

分類コード 01-14

熊本県農林水産部

## 褐毛和種種雄牛「<sup>つるたま</sup>弦球」の選抜

農業研究センター 畜産研究所生産基礎技術研究室  
担当者：宮崎佳奈子

### 研究のねらい

産肉能力直接検定で選抜された種雄牛の遺伝的能力を推定するため、後代牛による産肉能力現場後代検定を実施し、その肥育及び産肉能力により優秀な種雄牛を選抜する。

### 研究の成果

1. 肉質およびばらの厚さ、枝肉重量に優れた褐毛和種種雄牛「弦球」を選抜した。

#### ○血統

父 第四弦光 (高 88)	祖父 第四光重(高 82)	— 光重E T(育高 1)
	祖母 第二たかまる(繁殖 2263)	— 第二重波(特級 27)
母 ゆうみ☆ (繁殖 21496)	祖父 光重球磨(繁殖 91)	— 重球磨(特級 91)
	祖母 ゆうか(繁殖 16847)	— 第十六光重(育高 2)

○登録番号：繁殖 1 9 5

○生年月日：平成 2 3 年 1 2 月 2 1 日

○生産地：熊本市(山内 保幸)

2. 現場後代検定成績および育種価

○枝肉重量は去勢 509.4kg、雌 474.0kg と優れており、育種価でも 36.308(評価種雄牛 510 頭中 24 位)と極めて高く、優れた能力を有すると推定される。

○ばらの厚さは去勢 8.5 cm、雌 8.7 cm と極めて優れており、育種価でも 9.644(評価種雄牛 510 頭中 4 位)と極めて高く、優れた能力を有すると推定される。

○脂肪交雑等級は去勢 4.50、雌 4.00 と極めて優れており、育種価でも 2.748(評価種雄牛 510 頭中 3 位)と極めて高く、優れた能力を有すると推定される。

○ロース芯面積は去勢 55.7 cm<sup>2</sup>、雌 54.0 cm<sup>2</sup> と優れており、育種価でも 6.975(評価種雄牛 510 頭中 22 位)と極めて高く、優れた能力を有すると推定される。

○S B V は枝肉重量 1.89、脂肪交雑 2.67、ロース芯面積 1.99、バラの厚さ 3.03、皮下脂肪の厚さ 1.05 とすべての項目について改良効果が大きいと推定される。

3. 特徴

現場後代検定において、ばらの厚さ及び脂肪交雑等級が歴代最高の成績であり、さらに枝肉重量やロース芯面積についても極めて優れた能力を持つ質量兼備の種雄牛であり、「第四弦光」の後継牛として高い能力が期待される種雄牛です。

[具体的データ]

熊本県農林水産部



弦球 (つるたま)



格付け:A-5 枝重:562.6kg  
 BMS:11 ロース:77cm<sup>2</sup>  
 ばら:9.3cm 母の父:秋光重

表1 現場後代検定成績

区分	頭数	枝肉重量 (冷と体) (kg)	脂肪交雑 (BMS No.)	ロース 芯面積 (cm <sup>2</sup> )	バラの 厚さ (cm)	皮下脂肪 の厚さ (cm)	日齢枝肉 重量 (g)
去勢	12	509.4	4.50	55.7	8.5	2.9	668.5
雌	6	474.0	4.00	54.0	8.7	3.4	618.5
全体	18	497.6	4.33	55.1	8.5	3.0	651.8

表2 育種価(BV) (H29.2 評価)

	順位	育種価 (正確度)
枝肉重量	24	36.31 (0.89)
脂肪交雑	3	2.75 (0.92)
ロース芯面積	22	6.96 (0.88)
ばらの厚さ	4	9.64 (0.88)
皮下脂肪の厚さ	67	-4.959 (0.91)
日齢枝肉重量	31	44.42 (0.89)

※ 後代頭数 29 頭(フィールド成績を含む)

※ 順位は評価種雄牛 510 頭中の順位

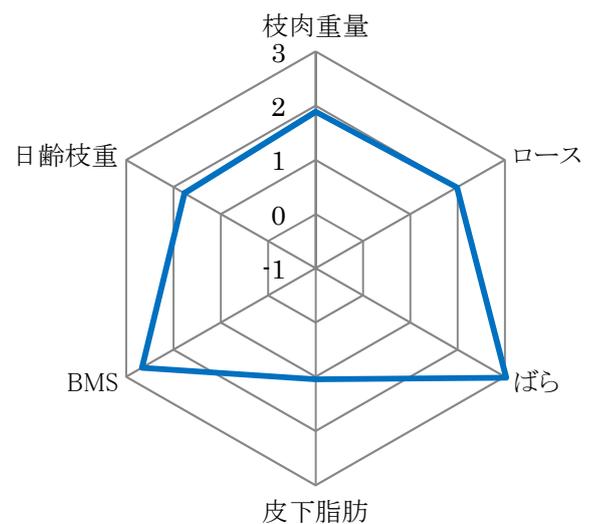


図1 SBV (標準化育種価)

※ 形質ごとに比較でき、わかりやすくするために標準化したもの  
 ※ 皮下脂肪は逆符号